

新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。令和の時代も 5 年目となり、皆様には穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。地域の皆様に支えられ、釧路労災病院は今年も無事に新しい年を迎えることができました。誠にありがとうございます。



西暦で言うと 2020 年に始まったコロナ禍は、いまだに終息の兆しが見えず、昨年も当院を含む多くの医療機関がクラスター発生の憂き目を見ました。その際に実感したことは、医療は健全な状態の医療人によって支えられているという当たり前の事実でした。どんなに立派な設備があっても、それを使う人間がいなければ仕事は成り立たない。マンパワーがいかに重要であるかを再確認させられました。今年度、当院は「病床数を削減して相対的にマンパワーの充実を図る」という大きな決断をいたしました。増加し続ける外来化学療法や術後ケアなど、人手の必要な医療に対して「質を落とさない」ための覚悟とも言える計画です。

同時に、地域医療を守り抜くためには、病院やクリニックがいざという場合に補完し合うシステムが重要であることが明白になりました。この地域にひとつしかない診療科や医療機器が、新型コロナのために使えなくなってしまうと、地域の患者さんは頼る場所を失ってしまいます。当院では、無菌治療室や HCU(高度治療室)の拡充、ロボット手術装置等の導入を進め、診療機能の充実を図ります。そのためにも、地域の若い力が医療という仕事に関心を持ち、共に働いてもらえるような病院になりたいと願っています。

普段からどんなことでも相談に乗っていただけるかかりつけ医師や薬剤師を持ち、困ったときには信頼できる病院に紹介していただけるシステム。理想的な地域医療環境の中で、住民の皆様から選ばれる病院であるために、当院は努力し続けます。本年も、さらなるご支援、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

院長代理 小笠原和宏